

日本原子力学会 炉物理部会 第 63 回全体会議 議事次第

日時：2025 年 9 月 10 日（水）12:05～12:55

場所：日本原子力学会 2025 年秋の大会 九州国際会議場/AIM N 会場（AIM 3F 313 会議室）

令和 7 年度 表彰および審議・報告事項

【表彰】

- | | | |
|-----------------------|-------|------------|
| 1. 令和 7 年度炉物理部会賞受賞者紹介 | （部会長） | （資料 63-01） |
|-----------------------|-------|------------|

【審議事項】

- | | | |
|----------------------------|--------|------------|
| 2. 令和 7 年度予算執行状況及び 8 年度予算案 | （財務） | （資料 63-02） |
| 3. 2026 年春の年会企画セッションについて | （学術交流） | （資料 63-03） |

【報告事項】

- | | | |
|--------------------------------|--------|------------|
| 4. 第 56 回炉物理夏期セミナー開催報告 | （セミナー） | （資料 63-04） |
| 5. 炉物理部会部会賞細則の改訂について（貢献賞推薦） | （部会長） | （資料 63-05） |
| 6. 炉物理部会の役割検討 WG アクションプランの実施状況 | （部会長） | （資料 63-06） |
| 7. SNS 活用検討タスクチーム活動中間報告 | 相澤氏 | |

以上

令和 7 年 8 月 20 日

第 19 回（令和 7 年度（2025 年度））日本原子力学会炉物理部会賞選考について

炉物理部会部会長
選考小委員会
牛尾 直史

炉物理部会では、2007 年度より、原子炉物理学分野の若手研究者・技術者の奨励を目的として、本分野において優れた活動を行っている若手研究者・技術者に対して、日本原子力学会炉物理部会賞を贈呈してきた。2016 年度より、従来の若手研究者・技術者を対象としたものを「部会賞奨励賞」とし、あらたに原子炉物理学分野の発展に著しい貢献・功績が認められる活動を行っている研究者・技術者に対し、「部会賞貢献賞」を贈呈することとした。さらに 2018 年度より「部会賞貢献賞」の対象として組織施設を含めることとしている。（炉物理部会 部会賞表彰細則 1002-01-02 令和 7 年 3 月 7 日炉物理部会運営小委員会決定 以下表彰細則）

奨励賞については、原子炉物理学分野の研究・技術開発等において積極的かつ優れた活動を行っていること、かつ研究・技術開発等の活動の成果を、学術雑誌、国際会議、または日本原子力学会「春の年会」・「秋の大会」等で発表している若手研究者・技術者（公募年度の 4 月 1 日時点で万 35 歳以下の炉物理部会正会員または学生会員）、貢献賞については、原子炉物理学分野の発展に対する貢献・功績が認められる炉物理部会員、学生会員（年齢制限は設けない）または組織施設を対象とし、表彰細則に基づいて、選考小委員会によって部会賞候補者を選定し、炉物理部会運営小委員会の承認により表彰者を決定する。

今般、2025 度の炉物理部会部会賞被表彰者を選考した。

1. 選考過程

(1) 部会賞の公募

炉物理部会メーリングリスト、ホームページを通じて公募した。

公募期間：2025 年 5 月 8 日～2025 年 7 月 24 日

公募結果：奨励賞 2 件の応募と貢献賞 1 件の推薦があった。

(2) 部会賞候補者の選定

表彰細則第 6 条“部会長、副部会長、庶務幹事および部会長の指名するその他の運営委員からなる 6 名で構成する。ただし、利害関係者は選考小委員会の構成員になれない。”に従い 6 名の選考小委員会を設けた。選考小委員会の各委員は、受賞候補者の研究業績について、応募用紙の記載内容及び参考文献をもとに、下記の観点に対して 5 点満点（3 点で合格）で評価した。

【奨励賞】

- 炉物理分野において期待される貢献度
- 激励する意義

【奨励賞】

- 炉物理分野の発展に対する貢献度
- 活動を表彰する意義

上記項目に関する全審査委員の評価点の平均が合格点を全候補者が上回ったため、今回公募のあった奨励賞 2 件及び貢献賞 1 件の受賞は適切であると判断した。

(3) 部会賞表彰者の決定

部長は、選考小委員会による選定の過程と結果について、部会運営小委員会に報告し、選考小委員会によって選定された奨励賞 2 件及び貢献賞 1 件の部会賞表彰が承認された。

2. 選考結果

(1) 奨励賞

件名： 固有直交分解を用いた local/global 反復法に基づく SP_3 輸送計算手法の開発
 受賞者：伊藤 雅人（株式会社 原子力エンジニアリング）

件名： Desing study of lead-bismuth cooled metallic fuel RFBB start-up core and the transition phase analysis

受賞者：Xucheng Zhao（国立大学法人 東京科学大学）

(2) 貢献賞

件名： 炉物理教科書（初級編）の執筆・発刊

受賞者：炉物理教科書（初級編）執筆チーム

主執筆者(敬称略・順不同)

：千葉豪、卞哲浩、山本章夫、西山潤、竹田敏、小林千将、遠藤知弘、山本健土、竹澤宏樹、佐藤駿介、相澤直人、山中正朗、左近敦士、山根祐一

執筆協力者(敬称略・順不同)

：吉岡研一、日野哲士、小池啓基、宇根崎博信、亀山高範、馬野琢也、三澤毅

以上

令和7年度 炉物理部会予算及び実績

科 目	R7年度 予算案	R7年度 実績	備 考
-----	-------------	------------	-----

[1] 通常予算 (単位 円)

収 入	前年度予算繰越金 [A]	6,014,406	6,014,406	2025/7実績より
	本部配布金	226,000	226,000	
	掲載料	0	0	
	テキスト売上	0	0	
	セミナー残金	0	107,473	[G] (内訳: 収入300,000円、支出192,527円)
	その他	0	0	
	当期収入合計 (セミナー残金は含まない)	226,000	226,000	[B] (セミナー残金は含まない)

支 出	会議費	0	0	
	旅費交通費	180,000	90,000	・国際会議旅費補助4.5万円×4名の予算に対し2名に支払い手続き済み。
	通信運搬費	4,000	0	・炉物理部会賞副賞の輸送料を計上する可能性あり。
	消耗品費	4,000	0	
	一般外注経費	30,000	38,266	・炉物理部会賞副賞(組織1件、個人3件)の予算に対し、奨励賞2件(副賞として表彰楯)、貢献賞1件の受賞(副賞としてメダル)。
	諸謝金	0	0	
	負担金	0	0	
	助成金	0	0	
	通常予算補助金	0	0	
	管理費配賦額	0	0	
	その他	0	0	
	当期支出合計	218,000	128,266	[C]

通常予算収支 [D]=[B]-[C]	8,000	97,734	セミナー収支は含まない
本部納付金 [F]=[D]+「G」×0.2	8,000	119,229	学会規程(0303)第8条①に従い、全活動の支出合計[C]が本部配布金を下回ることから、差額を本部を返納する。また、返納金にはセミナー残金[G]の20%を含む

翌年度繰越金 [E]=[A]+[G]×0.8	6,014,406	6,100,384	セミナー残金[G]の80%を含む
---------------------------	-----------	-----------	------------------

令和8年度 炉物理部会予算案

科 目	R8年度 予算案	備 考
-----	-------------	-----

[1] 通常予算 (単位 円)

収 入	前年度予算繰越金 [A]	6,100,384	
	本部配布金	226,000	令和7年度と同じとした暫定値
	掲載料	0	
	テキスト売上	0	
	セミナー残金	0	セミナー収支は±0として計算
	その他	0	
	当期収入合計 [B]	226,000	

支 出	会議費	0	
	旅費交通費	180,000	・学生の国際会議旅費補助 4.5万円×4名
	通信運搬費	4,000	・書類送料
	消耗品費	4,000	・印刷代、コピー代、運営会議開催時の事務用品代
	一般外注経費	30,000	・炉物理部会賞副賞(組織1件、個人3件)
	諸謝金	0	
	負担金	0	
	助成金	0	
	通常予算補助金	0	
	管理費配賦額	0	
	その他	0	
	当期支出合計 [C]	218,000	

通常予算収支 [D]=[B]-[C]	8,000
本部納付金 [F]	8,000

翌年度繰越金 [E]=[A]+[D]-[F]	6,100,384
------------------------	-----------

2026 年春の年会部会企画セッション検討状況

学術交流小委員会担当幹事
近藤諒一，荒木颯太

日本原子力学会 第 63 回炉物理部会全体会議
2025 年 9 月 10 日

2026 年春の年会における企画セッションのテーマ案として以下を検討している。

企画セッションタイトル（案）

「JENDL-5.1 の開発状況と炉物理研究の核データ利用における課題」

セッション内容（案）

評価済み核データライブラリ JENDL-5.1 の開発が進行中である。熱中性子散乱則や共分散データの更新が計画されており、これらの改良は炉物理研究においても注目すべき点である。核データの開発側と利用側が積極的に情報を共有することは、双方の理解と技術の向上に寄与すると考えられる。

予定している講演の概要（案）

発表内容は以下の 3 つのトピックに関する発表を予定している。詳細は調整中である。

- ① JNEDL-5.1 の開発状況 (核データ部会)
- ② JENDL-5.1 における新たなトピック (核データ部会)
- ③ 炉物理研究の核データ利用における課題 (炉物理部会)

以上

第 56 回炉物理夏期セミナー開催報告

セミナー小委員会担当幹事

大 阪 大 学

原子燃料工業

第 56 回炉物理夏期セミナーは、2025 年 8 月 28 日(木)～29 日(金)の日程で、大阪大学中之島センターにて開催された。参加者は 67 名(社会人 29 名、学生 24 名、講師 6 名、事務局 8 名)であった。社会人には若手技術者の参加が多く、学生とあわせて将来の炉物理分野を担う人材にも多く参加いただいた。

テーマは「燃料設計と炉物理」であった。新型炉・新型燃料の開発において炉物理技術者が果たす役割、炉物理技術者とその他燃料開発に関わる技術者の関係について理解することを目的として、燃料設計と炉物理の関係に着目し、燃料設計（燃料仕様の設定、燃料の安全設計）において、炉物理がどのように活用されるかを、座学及び演習で学ぶスタイルとした。詳細は次ページ以降に示す。

また今回、次ページに示すように実施要領を変更している。新たな試みとして実施した内容については、アンケート結果を見ると、概ね方向性は支持されたようである。

最後に、講義をお引き受けいただいた講師の皆様、参加いただいた皆様、及び協賛いただいた各機関の皆様に深く御礼申し上げます。

項目	従来	今回	評価	補足
開催期間	2泊3日	1泊2日	概ね（約60%） 高評価	評価結果から、参加のしやすさ向上（スケジュール調整のしやすさの観点）につながったと考えている。 一方、少数であるが「講義以外での交流も含め、2泊3日の方が良い」という意見もあり。
参加費	数千円	無料	高評価	従来よりも多くの広告出稿（協賛金への賛同）をいただけた点が最も影響大（従来 5～6 社に対して今回 10 社）。加えて、大学施設利用（宿泊施設併設の会議室を借りるよりも低コスト）、テキストのペーパーレス化による支出低減により実現。
若手研究 発表会	プレゼン形式 （2名程度）	ポスター形式 （10名）	概ね（50%）高評価 （プレゼン形式の方が良かったという意見はなし）	活発な議論ができたという意見が多数あり。
宿泊場所	会場宿泊施設	各自で手配 （昨年度から）	—	宿泊を伴うセミナー開催には観光業の認可取得が必要となることから、各自で手配いただく方針とした。（観光業の認可を取得すれば宿泊を伴うセミナー開催は可能、対応については学会事務局で検討中の模様）
軽食・飲料の 提供	コーヒーなど	なし	—	「学会が費用を負担する飲食費用等の支出に関する規約」の改訂に伴い、夏期セミナー予算（参加費、協賛金）から参加者への飲食物の提供は不可となった。
懇親会	セミナー公式行事として 会場施設で開催	セミナーとは別に開催 （昨年度から）	—	「軽食・飲料の提供」と同様。 「学会が費用を負担する飲食費用等の支出に関する規約」の改訂に伴い、夏期セミナー予算（参加費、協賛金）による懇親会開催は不可となった。（夏期セミナー予算とは別に、独立した独自会計で実施する必要あり）

1. セミナー概要

テーマ：燃料設計と炉物理

会期：2025年8月28日（木）～29日（金）

会場：大阪大学中之島センター6E, 6F 会議室

参加者：67名（社会人29名，学生24名，講師6名，事務局8名）

主催：日本原子力学会 炉物理部会

幹事：大阪大学，原子燃料工業

2. 参加費・宿泊費

参加費：無料

宿泊，食事：各自で手配

3. プログラム

	スケジュール	内容	講師
1 日 目	12:30~12:40	開会挨拶	部会長(NFI 牛尾氏)
	12:40~12:50	事務連絡，セミナー趣旨説明	事務局
	12:50~13:50	1. 燃料の安全設計の考え方	MHI 坪田氏
	14:00~15:20	2. PWR における燃料の安全設計と炉物理の関係	四電 西岡氏
	15:30~16:50	3. BWR における燃料の安全設計と炉物理の関係	GNF-J 土田氏
	17:00~18:00	若手研究会（ポスター発表）	－
	18:00~18:30	写真撮影	－
	18:30~20:30	懇親会（自由参加）	－
2 日 目	8:45~10:15	4. 一点炉モデルによる燃料仕様策定①(座学)	スタズビック・ジャパン 山崎氏
	10:25~11:25	4. 一点炉モデルによる燃料仕様策定②(ツール作成)	NFI 山本氏(山崎氏)
	11:25~12:30	昼食休憩	－
	12:30~15:00	4. 一点炉モデルによる燃料仕様策定③(問題演習)	NFI 長野氏(山崎氏)
	15:00~15:10	閉会挨拶	事務局代表(阪大 北田先生)

4. 各講義の概要

4.1. 燃料の安全設計の考え方(MHI 坪田氏)

日本原子力学会報告書「発電用軽水型原子炉の炉心及び燃料の安全設計に関する報告書 第 1 分冊：炉心及び燃料の安全設計 (AESJ-SC-TR009-1:2021)」の記載を参考に、原子燃料に求められる機能として、以下の説明がなされた。

1. 原子力発電所の安全確保の観点から燃料に対して求められる機能
2. 安全確保のための機能が喪失に至る要因と、要因に対して評価又は制限すべき項目
3. 評価項目に対する具体的な考え方、評価すべき事象と解析手法

特に、PWR を例にとり、評価すべき事象（安全解析、燃料棒健全性解析）と核設計・炉物理の関係についてまとめた。

4.2. PWR における燃料の安全設計と炉物理の関係(四電 西岡氏)

PWR 燃料仕様の設定について説明した後、燃料の安全設計と核設計・炉物理の関連について説明があった。

PWR 燃料仕様の設定の説明では、まず PWR の仕組み・特徴、PWR 燃料の変遷について説明したのち、燃料仕様（ウラン濃縮度、燃料棒ピッチ、可燃性毒物の濃度・本数・配置）の設定について、炉物理の観点からこれら仕様を設定する必要があることを説明した。

燃料の安全設計と炉物理の関連については、各種評価事象に対して核設計・炉物理から解析に必要なデータが提供されるという流れについて、代表的な事象に対する説明がなされた。

最後に今後の展望として、現在行われている燃料開発（ATF（Cr コート、EnCore 燃料）、長期サイクル運転向け燃料）の紹介があった。

4.3. BWR における燃料の安全設計と炉物理の関係(GNF-J 土田氏)

基本的な流れは PWR に関する説明と同様であり、BWR 燃料仕様の設定について説明した後、燃料の安全設計と核設計・炉物理の関連について説明があった。

BWR 燃料仕様の設定の説明では、まず BWR の仕組み・特徴、BWR 燃料の変遷について説明したのち、燃料仕様（集合体の形状・寸法、ウラン濃縮度・配置、可燃性毒物の濃度・本数・配置）の設定について、炉物理の観点からこれら仕様を設定する必要があることを説明した。特に PWR と異なる BWR の特徴として、軸方向にボイド率分布が生じることを踏まえて、3 次元的に燃料仕様を検討する必要があることが説明された。

燃料の安全設計と炉物理の関連については、各種評価事象に対して核設計・炉物理から解析に必要なデータが提供されるという流れについて、代表的な事象に対する説明がなされた。また BWR の特徴として、重要な評価事象である核熱水力安定性（熱水力計算とのカップリング）に関する説明があった。

また、核設計が全ての評価の中心（各評価の入力）となることから、炉物理エンジニアは自身の範囲にとどまらず安全評価全体をリードする役割が求められるというメッセージが伝えられた。

4.4. 一点炉モデルによる燃料仕様策定(座学、演習)(スタズビック・ジャパン 山崎氏, NFI 長野氏, 山本氏)

まず座学による理論の説明、評価ツールの説明の後に、ツールを用いた演習という流れで講義が行われた。

理論の説明では、炉心設計の基礎的な内容（中性子の生成・消滅、核計算の流れ）について説明した後、燃料運用と経済性に関する説明があった。経済性については、経済性評価の指標として発電原価の内訳（主に

資本費，運転維持費，燃料費）に関する説明があった。また，燃料運用の重要なポイントであるサイクル長と取出燃焼度の関係について，一点炉モデルの理論と評価例を交えた説明がなされた。

また，現在開発・検討が行われている炉心・燃料の紹介として，SMR,HALEU について，国ごとの特徴（米国と欧州の違いなど）を踏まえた説明があった。

評価ツールの説明では，一点炉モデルを用いて濃縮度と運転期間から必要な新燃料体数・バッチ数・取出平均燃焼度を算出するツールについて，使い方，各パラメータの見方・考え方，ツールの内部処理の説明がなされた。演習に先立ち，ツールの使用方法（濃縮度・運転期間を変更した際の挙動）の確認が行われた。

最後に，より理解を深めることを目的として，以下項目について，評価ツールを用いた演習で体験したのちに解説を行った。

1. 新燃料体数／取出平均燃焼度と運転期間（サイクル長）の関係
2. 新燃料体数／取出平均燃焼度と濃縮度の関係
3. Gd 有無の影響

上記項目について説明したのちに，仕上げとして与えられた条件（濃縮度と燃料の最高燃焼度を固定）に対する最適な運転期間の検討と，その条件から運転期間を変更（長期サイクル運転を想定した変更）した際に，最適な濃縮度と必要な取替体数の検討を行い，演習のまとめとした。

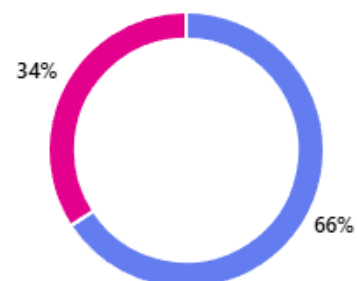
5. 若手研究会

今回、より活発な議論が行われることを期待して、ポスターセッション形式での開催とした。大学、研究機関の協力により10件の発表をいただいた。活発な議論がなされていたことから、時間を予定よりも10分延長したが、それでも議論が尽きない様子であり、非常に好評であったと感じている。

6. アンケート結果

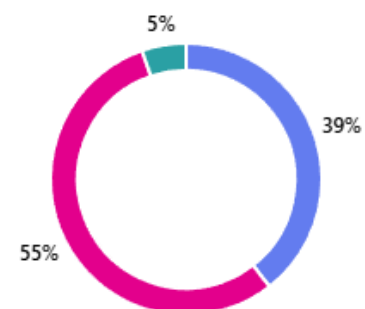
1. セミナー全体の満足度

● とても満足	25
● 満足	13
● 普通	0
● 不満	0
● とても不満	0



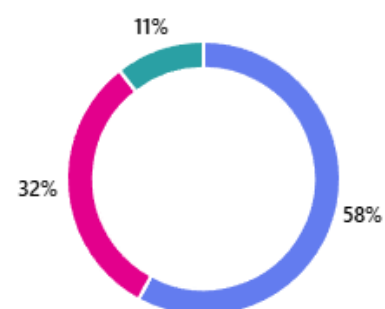
2. 内容の理解度

● よく理解できた	15
● ある程度理解できた	21
● 難しかった	2
● ほとんど理解できなかった	0



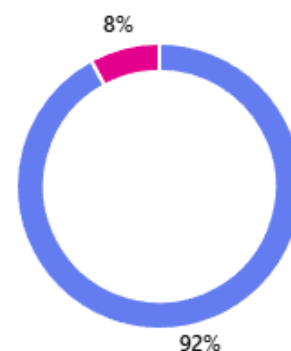
3. 講師の説明のわかりやすさ

● とてもわかりやすかった	22
● わかりやすかった	12
● 普通	4
● わかりにくかった	0
● とてもわかりにくかった	0



4. セミナーの時間配分

● 適切だった	35
● 長すぎた	3
● 短すぎた	0

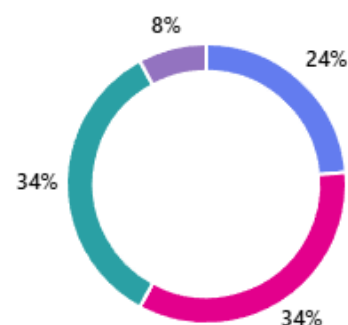


5. その他、セミナーに関するコメントはありますか（参考になった・難しかった・改善が必要など）？

- もう少し小まめに休憩を取った上で、3 日間開催の方が自分は良かったです。
- どの講義も理解し易く、面白かったです。
- 各講義はとても分かりやすく参考になる内容でしたが、被りが多かったため独立しているとさらに良いと思いました。
- 教科書から先の適用について学べる良い機会だった。
- 一点炉モデル評価について、実際に手を動かして評価することで理解が深まりました。
- 若手研究会をポスターセッションにした試みは議論ができて非常によかったです。
- 経済性を考慮すると、取替本数など様々な考慮が必要となる点について、納得しつつも難しい点が多かった。
- とても参加した意義が大きかった。前回は今回も少し会場が窮屈だった。
- 燃料設計と炉物理の関連を初めて勉強ができました。特に、最後の一点炉モデルの演出を行えて良かったです。

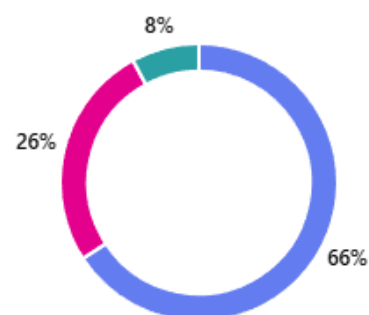
6. 例年は2泊3日の日程であるところを1泊2日としましたが、それに対する評価をお聞かせください。

● 非常に良かった	9
● 良かった	13
● どちらとも言えない	13
● あまり良くなかった	3
● 良くなかった	0



7. 例年は参加費を徴収していたところを「参加費なし」としましたが、それに対する評価をお聞かせください。

● 非常に良かった	25
● 良かった	10
● どちらとも言えない	3
● あまり良くなかった	0
● 良くなかった	0



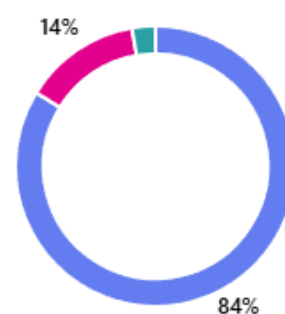
8. 若手研究発表会にポスターセッション形式を採用しましたが、それに対する評価をお聞かせください。

● ポスター形式の方が良かった	19
● どちらとも言えない	19
● 従来形式の方が良かった	0



9. 若手研究発表会のポスターセッションにおける意見交換の状況について、従来と比較してどう感じましたか？

● 意見交換が活発に行えた	31
● 従来と同じぐらいであった	5
● 意見交換がしづらかった	1



10. その他、セミナー形式変更に関するコメントはありますか？

- 講義以外でも交流ができる点も含め、炉物理夏期セミナーは楽しい印象があるので 2 泊 3 日の方が嬉しいです。
- ポスターセッションでは学生でも気軽に質問できるのが良かったが、質問者と発表者が一対一で長時間議論するという場面もありました。

11. 今後も炉物理夏期セミナーに参加したいと思いますか？

● 毎年参加したい	21
● 内容によっては参加したい	17
● あまり参加したくない	0
● 今回限りの参加予定	0



12. 今後の炉物理夏期セミナーで学びたい内容・テーマは何ですか？

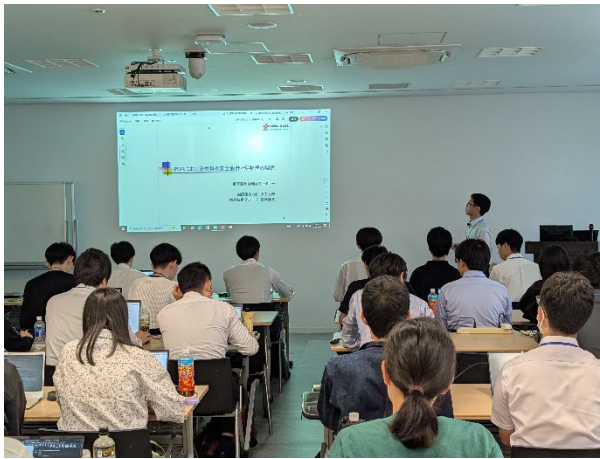
- 機械学習（同様のコメントが 2 件）
- 計算コードについて
- 燃焼計算
- 今回のテーマを学べたことで満足しました。
- 動特性・過渡解析、安全解析
- モンテカルロ法
- 産業界、アカデミアの間にある知識ギャップを埋められるものなら全て
- 炉心設計の知見交流
- 核熱結合計算に関する内容を勉強したいと思い、特に革新炉における核熱結合計算はどのように取られているかを知りたいと考えています。

集合写真



セミナー状況





以上



炉物理部会 部会賞表彰細則

2025 年 ~~88~~ 月 ~~277~~ 日 炉物理部会運営小委員会決定

(目的)

第 1 条 本細則は「炉物理部会規約」第 1 条、第 3 条ならびに「部会・連絡会・支部表彰制度規程」(0110) 第 1 条に基づき、炉物理部会部会賞（以下、「部会賞」という）について定めることを目的とする。

(趣旨)

第 2 条 原子炉物理学分野の若手の研究者・技術者の奨励を目的として、本分野において優れた活動をおこなっている若手研究者・技術者に対し、部会賞奨励賞を贈呈し、優れた口頭発表をおこなった若手研究者・技術者に対し部会賞優秀講演賞を贈呈する。また、原子炉物理学分野の発展に著しい貢献・功績が認められる活動をおこなっている研究者・技術者・組織施設に対し、部会賞貢献賞を贈呈する。

(受賞資格)

第 3 条 部会賞の受賞資格は以下のとおりとする。

- 2 奨励賞および優秀講演賞については、当該年度の 4 月 1 日時点で満 35 歳以下であること。貢献賞については、年齢制限を設けない。
- 3 炉物理部会会員または学生部会員であること。

(受賞の判定基準)

第 4 条 受賞の判定基準は以下のとおりとする。

- 2 奨励賞については、原子炉物理学分野の研究・技術開発等において積極的かつ優れた活動をおこなっていること、かつ研究・技術開発等の活動の成果を、学術雑誌、国際会議、または日本原子力学会「春の年会」・「秋の大会」等で発表していること。ただし今後の更なる発展が期待できるものであれば完成度は問わない。受賞者は、毎年 3 名以内とする。
- 3 貢献賞については、原子炉物理学分野の発展に対する貢献・功績が認められること。研究者・技術者への授賞については受賞者の人数制限は設けない。組織・施設への授賞については構成員の人数制限は設けない。
- 4 優秀講演賞については、「春の年会」および「秋の大会」での口頭発表を対象とし、各 3 名程度を目安とする。
- 5 奨励賞、貢献賞ともに、該当者がいない場合は受賞者なしとする。

(応募)

第5条 部会賞の公募は、炉物理部会ホームページ上でおこなう。

- 2 部会賞奨励賞の応募は自薦または他薦とし、所定の様式にて部会長宛提出する。
- 3 部会賞貢献賞の応募は、原則として他薦とし、~~その貢献・功績に対し2つ以上の所属機関から計4名以上の部会員の推薦者があることとし、~~所定の様式にて部会長宛提出する。
- 4 部会賞優秀講演賞の応募は、自薦または他薦とし、各行事開催前に所定の様式にて部会長宛提出する。

(選考・表彰手順・表彰時期)

第6条 奨励賞および貢献賞は、選考小委員会を部会長、副部会長、庶務幹事および部会長の指名するその他の運営委員からなる6名で構成する。ただし、利害関係者は選考小委員会の構成員になれない。優秀講演賞は、聴講者による投票によって決定する。

- 2 選考小委員会は応募のあった者の中から候補者を選定する。
- 3 部会長は、運営小委員会の承認を得て、候補者の受賞を決定する。
- 4 受賞者の表彰は、部会全体会議においておこない、奨励賞および貢献賞は表彰状および副賞を、優秀講演賞は表彰状を贈呈する。
- 5 部会賞推薦書の様式、公募時期、表彰状および副賞等の詳細については運営小委員会において定める。

(選考結果報告)

第7条 表彰決定後、選考過程および選考結果を理事会へ報告する。

(改定)

第8条 本細則の改定は、炉物理部会運営小委員会が決定し、炉物理部会全体会議、部会等運営委員会ならびに理事会に報告するものとする。

附則

- 1 平成24年3月21日 第36回炉物理部会全体会議制定、同日施行
- 2 改定履歴
 - ① 平成18年9月28日 「部会表彰内規」として制定
 - ② 平成24年3月21日 学会管理の内規に変更。第36回炉物理部会全体会議制定
 - ③ 平成27年9月10日 第43回炉物理部会全体会議承認、平成27年12月14日 第2回部会等運営委員会報告、平成28年1月26日 第6回理事会報告
 - ④ 平成28年3月27日 「炉物理部会部会賞表彰細則」に変更 炉物理部会運営小委員会承認、平成28年3月27日 第44回炉物理部会全体会議報告、平成28年6月16日 部会等運営委員会報告、平成28年7月28日 第2回理事会報告
 - ⑤ 平成28年8月1日 炉物理部会運営小委員会決定、平成28年9月8日 第45回炉物理部会全体会議報告、平成29年3月15日 部会等運営委員会メール報告、平成29年3月21日 第7回理事会報告
 - ⑥ 2018年3月14日 炉物理部会運営小委員会決定、2018年3月27日 第48回炉物理

部会全体会議報告、2018 年 4 月 17 日 部会等運営委員会メール報告、2018 年 5 月 29 日
第 8 回理事会報告

- ⑦ 2025 年 3 月 7 日 炉物理部会運営小委員会決定、2025 年 3 月 13 日 第 62 回炉物理部会
全体会議報告、2025 年 4 月 14 日 部会等運営委員会メール報告、2025 年 5 月 29 日 第
8 回理事会報告

- ⑧ 2025 年 8 月 27 日 炉物理部会運営小委員会決定、2025 年 9 月 10 日 第 63 回炉物理部
会全体会議報告、2025 年 Y 月 YY 日 部会等運営委員会メール報告、2025 年 Z 月 ZZ 日
第 N 回理事会報告

附則

- 1 平成 27 年 9 月 10 日承認の内規は、炉物理部会全体会議承認の日から施行する。
- 2 平成 28 年 7 月 28 日承認の細則は、炉物理部会運営小委員会承認の日から施行する。
- 3 平成 28 年 8 月 1 日決定の細則は、炉物理部会運営小委員会承認の日から施行する。
- 4 2018 年 3 月 14 日決定の細則は、炉物理部会運営小委員会承認の日から施行する。
- 5 2025 年 3 月 7 日決定の細則は、炉物理部会運営小委員会承認の日から施行する。
- 6 2025 年 8 月 27 日決定の細則は、炉物理部会運営小委員会承認の日から施行する。

炉物理部会の役割検討ワーキンググループで 整理したアクションプランの状況

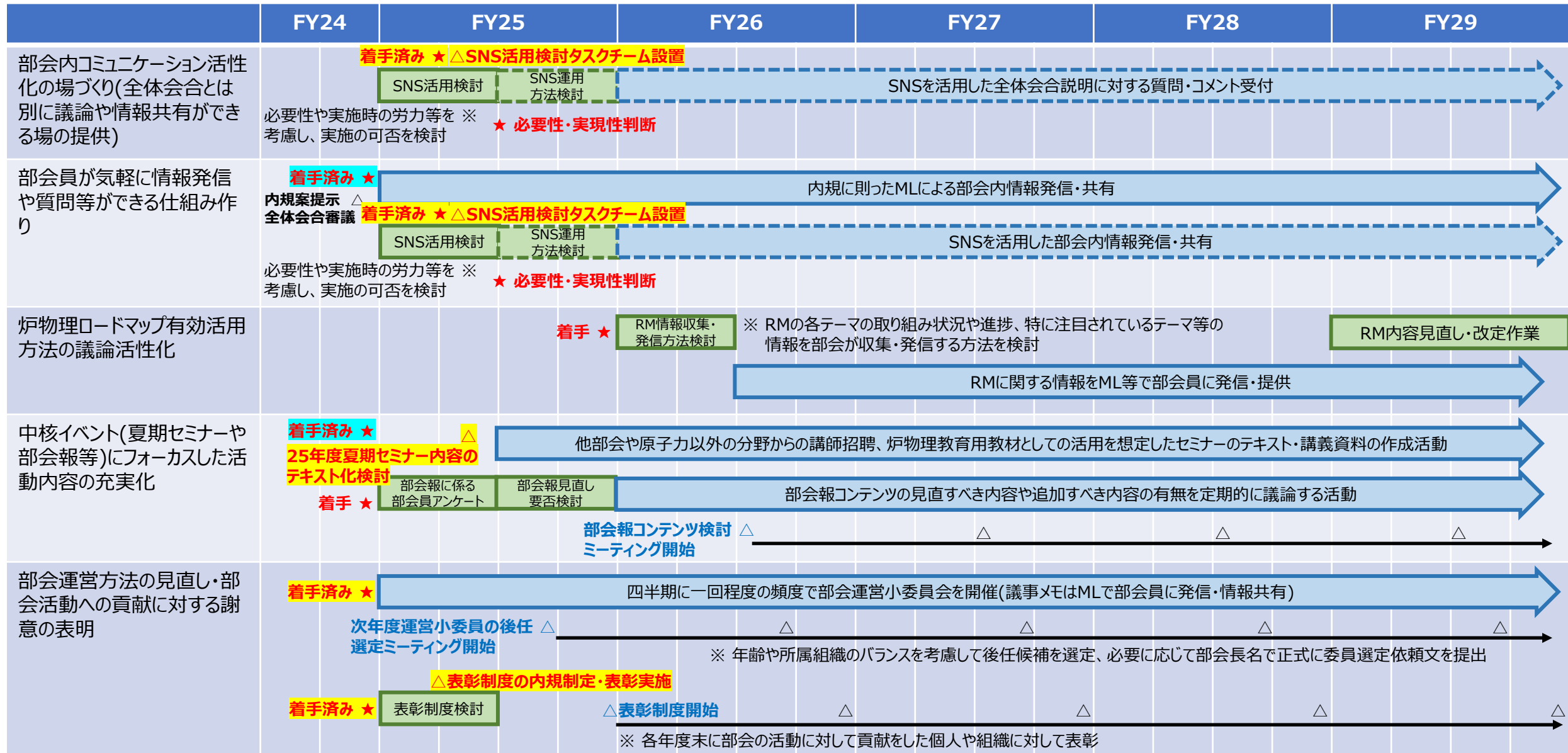
炉物理部会の役割検討ワーキンググループで整理したアクションプランの状況

	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28	FY29
炉物理部会による企業・研究機関・規制向け炉物理教育の提供(炉物理部会クレジットの有償教材の提供等)	着手 ★	MLや部会報等を通した現状部会が保有している無償教材活用の広報活動				
		着手 ★	有償教材・揭示板立上検討 必要性や実施時の労力等を ※ 考慮し、実施の可否を検討	揭示板運用方法検討 有償教材作成方法検討 ★ 必要性・実現性判断	教材利用学習時の質問受付・回答/アドバイスを行う揭示板の運用実施 有償教材提供	
若手の国際会議参加費の助成拡大・若手が自身の研究内容を発表する機会の提供	着手 ★	助成拡大検討	△ルール化(全体会合審議)、26年度予算から反映			
		着手 ★	開催方法検討	学生に加えて、企業・研究所の若手技術者・研究者への助成実施(継続要否は企業・研究所の利用状況を確認しながら適宜判断)		
		着手 ★	開催方法検討	若手研究発表会の実施(夏期セミナーだけではなく、年間複数回、若手研究発表会を開催する活動)		
部会賞とは別枠で若手の発表を表彰する仕組み作り	着手済み ★	運用方法検討	△25年秋の大会より開始			
	細則案提示 △ 全体会合審議	学会へ申請	春/秋の学会にて実施			
他部会との連携強化		着手済み ★	△他部会幹事とのミーティング	△	△	△
			※ 各年度上期末を目途に他部会幹事とのミーティングを開催			
			他部会との合同企画セッションや合同夏期セミナーを定期的に行う			
			△25年秋の大会(計算技術科学部会との合同セッション)			
許認可機会増加を見据えた勉強会の開催	着手 ★	開催方法検討 ※ 安全部会とも意見交換	25年度下期での初回開催を目標	△テーマに係る意見募集	△	△
企業にもメリットがある形で大学、企業、研究機関が一堂に会する機会の創出		着手 ★	交流方法検討	企業が抱える課題やニーズを議論するワークショップの開催(企業と大学・研究機関の交流の場を提供)		
			△テーマに係る意見募集			

 : 検討

 : 実現

炉物理部会の役割検討ワーキンググループで整理したアクションプランの状況

 : 検討

 : 実現

2025 年 5 月

2025 年 5 月 19 日 炉物理部運営小委員会 審議・決定

炉物理部会感謝状贈呈に係るルール

1. 目的

「炉物理部会の役割検討ワーキンググループ」で整理したアクションプランの一つとして、部会活動への貢献に対する謝意表明・インセンティブ付与が提言されている。これを実現するための施策として、部会活動への貢献に対して部会長が感謝状を贈呈する運用を開始するため、感謝状贈呈に係るルールを明確化する。

なお、原子炉物理学分野の発展に貢献・功績が認められる活動に対して「部会賞貢献賞」を贈呈することが別途定められているが、本ルールで明確化する感謝状贈呈は、炉物理部会や原子炉炉物理の発展に貢献する様々な活動に対して部会長が自発的かつ柔軟に謝意を表明し、インセンティブを付与することを目的とする。

2. 適用範囲

本ルールは炉物理部会の活動に貢献した個人や組織に適用する。

3. 感謝状贈呈対象

① 炉物理部会運営に対する貢献

部会運営小委員就任等により、部会運営をリードした活動に対する謝意表明。あるいは、部会運営小委員等の部会内運営組織に所属していないが、外部から部会運営を支援した活動に対する謝意表明。

② 炉物理部会が設置したワーキンググループ等での活動に対する貢献

部会事業の執行や課題解決、将来の活動方針検討等のために、部会が設置したワーキンググループでの活動に対する謝意表明。

③ 炉物理部会が開催するセミナーや研究会、勉強会、講演会等での発表に対する貢献

部会が開催するセミナーや研究会、勉強会、講演会等で講師や発表者を務めた労力に対する謝意表明。

④ その他

①～③に該当しないが、部会 3 役が感謝状贈呈対象と判断し、部会運営小委員会にて審議・承認された活動に対する謝意表明。

4. 感謝状贈呈の決定プロセス

「3.感謝状贈呈対象」の記載を考慮し、部会 3 役が感謝状を贈呈したいと考える部会貢献活動（その活動を行った個人名/組織名を含む）を部会運営小委員会に提案、部会小委員会にて審議を行い、承認された後に部会長名で感謝状を贈呈する。なお、感謝状贈呈に係る部会運営小委員会への提案は、部会 3 役が感謝状贈呈対象と判断する部会貢献活動があれば都度行えるものとする。